

夏季の全身症状と強いリバウンドを経て就労を再開した青年期アトピーの経過 (20 歳 女性)

症例 ID：001-20-NM2 | 記録日：2016 年 2 月 18 日

1. 診断・治療前経過

乳児期から頬が赤く、幼少期は関節部にかゆみがあり、近医でステロイド外用を受けました。中学期には皮膚症状が目立たなくなりました。

卒業後に臀部のかゆみが再燃し、ステロイド中止後には背中、臀部から全身へ強いかゆみと浸出症状が広がりました。その後約 3 年間、夏季に強く悪化する状態が続きました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	幼少期の関節部および再燃した臀部にステロイド外用薬を使用しました。
製品名	不明です。
強度	不明です。
使用期間	幼少期から青年期まで断続的に使用しました。
中止時期	他院で脱ステロイド治療を開始した時期です。
来院前／後	来院前に使用歴があります。来院後は使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
乳幼児～小学生期	発症・外用	頬と関節部に症状があり、ステロイドを使用しました。
卒業後	再燃	臀部のかゆみが出て、ステロイドを再使用しました。
他院で中止後	全身悪化	背中、臀部から全身へ強いかゆみと浸出症状が広がりました。
その後約 3 年	季節性悪化	夏季に腕や手首が赤くなり、半袖を着られない状態を繰り返しました。
松本医院受診後 2 週間	強いリバウンド	全身の熱感、強いかゆみ、不眠、関節部の深い傷が出ました。
約 3 週間	ピーク	昼夜逆転、食欲低下、体重減少、歩行困難がみられ、仕事を辞めました。
その後約 2 か月	回復過程	傷と落屑を繰り返しながら、掻いても傷ができにくくなりました。
同年 11 月頃	生活回復	皮膚状態が整い、新しい仕事を始められるようになりました。

4. ピーク時期

ピークは、治療開始後の約 3 週間に、全身の熱感とかゆみ、不眠、食欲低下、体重減少、歩行困難が重なった時期です。

5. 困りごと

- 強いかゆみと不眠で昼夜逆転となり、仕事を辞めました。
- 関節部の傷と痛みで歩行や腕の伸展が難しくなりました。
- 治療費と休職・離職により経済的な負担がありました。

6. 経過のまとめ

強い全身症状を約 3 週間経験した後、約 2 か月かけて皮膚が再生し、掻いても傷ができにくくなりました。

夏が終わった 11 月頃には皮膚状態が整い、新しい仕事を始められるまで回復しました。

症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。